

### 【はじめに】

尿検査は低侵襲で反復可能な簡便なスクリーニング検査である。尿沈渣は迅速に異型細胞の検出が可能な検査であり、「尿沈渣検査法 2010」においても悪性が疑われる細胞は異型細胞として報告することが推奨されている。今回我々は、尿沈渣検査が実施された尿検体を対象に、尿沈渣所見と尿細胞診結果の比較を行い、さらに尿沈渣における悪性細胞検出に有用な所見について検討したので報告する。

### 【対象・方法】

2026 年 1 月から 2026 年 6 月までに提出された尿検体のうち、尿沈渣検査が依頼された 19 例を対象とした。判定基準は「泌尿器細胞診報告様式 2015」を参考とし、核クロマチン増量、核形不整、N/C 比、核偏在、核腫大の 5 項目について評価した。各所見の程度は(－)を 0 点、(＋)を 1 点、(2＋)を 2 点とする 3 段階でスコア化した。

### 【結果】

19 症例中、尿細胞診において 15 症例が異型細胞 (Class III 以上) であった。核クロマチン所見は全症例でスコア 1 ま

たは 2 であった。尿細胞診で異型細胞 (Class III 以上) と判定された症例では、スコア合計は 7 点以上であった。一方、尿細胞診で陰性 (Class II) であった 4 症例では、スコア合計は 6 点以下であった。なお、19 症例中 1 症例において病理組織検査が追加され、高異型度尿路上皮癌と診断された。

### 【考察】

尿沈渣は迅速かつ簡便に実施可能である一方、観察者依存性や標本の保存性などの点で限界もある。しかし、本研究のように客観的指標としてスコア化することで、再現性の向上や判定の標準化に寄与する可能性がある。また、尿沈渣の段階で高スコアを示す症例に対して細胞診の追加を積極的に検討することで、診断精度の向上につながると考えられる。

### 連絡先

(株)兵庫県臨床検査研究所・中央検査室  
079-267-1251